

平成 29 年度 第 1 回南区まちづくり懇話会 会議録

1 日時 平成 29 年 6 月 27 日（火） 午前 10 時から 11 時半まで

2 場所 熊本市南区役所 3 階ホール

3 (1) 出席委員

前出委員、木村委員、野口委員、小山委員、海平委員、松浦委員、正木委員、吉村委員、岡委員（副会長）、芥川委員、宮澤委員、大澤委員、奥田委員、柴田委員（会長）、大村委員、藤本委員

(2) 出席職員

区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、区民課長、飽田まちづくりセンター所長、天明まちづくりセンター所長、幸田まちづくりセンター所長、南部まちづくりセンター所長、富合まちづくりセンター所長、城南まちづくりセンター所長、城南交流室長、保健子ども課長、福祉課長、保護課長、南農業振興課長

4 配布資料

- (1) 一会議次第
- (2) 一委員名簿
- (3) 一資料 1 「南区まちづくりビジョン」
- (4) 一資料 2 「南区まちづくり懇話会の概要について」
- (5) 一資料 3 「平成 29 年度南区まちづくり推進事業」

5 次 第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 南区長挨拶
- (4) 議事
 - ①南区まちづくりビジョンについて
 - ②南区まちづくり懇話会について
 - ③平成 29 年度南区まちづくり推進事業等について
- (5) 意見交換

テーマ「私のまちづくりについて」
- (6) その他

6 議事録

区長

委員の皆様には、お忙しい中第3期南区まちづくり懇話会委員を快くお引き受けいただき、感謝している。また、日頃から地域のまちづくりには多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げる。

さて、本市は昨年発生した熊本地震からの復興を加速し、本格的な取り組みを開始する本年度を「復興元年」と位置づけている。被災されたすべての皆様が1日でも早く生活を再建できるよう、そして多くの皆様が少しでも復興を実感していただけるよう熊本市一丸となって、大きく分けて3つのことに取り組んでいる。1点目は、市民生活の再建を最優先に、これを下支えする地域経済の活性化や防災・減災のまちづくりといった震災復興計画に掲げる施策を着実かつスピーディーに実施することで震災からの復興を加速させること。2点目は、まちづくり支援を強化するため、4月から地域支援の拠点としてまちづくりセンターを設置し、専任の地域担当職員を配置した。南区では6ヶ所のまちづくりセンターに13名の地域担当職員を配置し、積極的に地域に出向き、皆様の地域における課題解決に向けた支援に取り組んでいる。3点目は、内部の話になるが、市役所の改革。職員の意識改革を始め窓口サービスの向上、市民ニーズに基づく事業立案の仕組みづくり、働き方改革などに取り組み、市役所全体の生産性の向上につないでいくこととしている。これら3つの取り組みを推進することで相乗効果を生み出し、震災からの1日も早い復興を成し遂げ、新たな熊本市の創造に向けて市長を先頭に熊本市一丸となって取り組んでいる。

この南区においても、平成25年3月に策定した南区まちづくりビジョンに基づき、よりよいまちづくりを進めているが、本年度はビジョンの中間見直しの年である。南区の特色あるまちづくりを進めていくため、委員の皆様にご議論をいただき、新たな南区のまちづくりを進めていきたいので、委員の皆様においては、活発な協議をお願いしたい。

事務局

では、議事に入る前に、本来であれば、会長に議長を務めていただくことになるが、本日が第1回のまちづくり懇話会であるため、会長が選出されるまでは、事務局により、議事の進行を

させていただくことをお許しいただきたい。

まず、当懇話会の位置づけについてご説明する。当懇話会は市の「審議会等の設置に関する指針」において、市政運営上の意見聴取、交換、懇談等を行うために設置した懇談会等となっていて、南区のまちづくりについて協議し、その結果を区長に報告することを目的として設置している。

設置にあたっては「熊本市南区まちづくり懇話会設置要綱」を制定し、要綱において組織や運営等を規定している。なお、本日の懇話会会議は、16名の委員の全員が出席されていることから、要綱第7条第2項により、会議が成立していることをご報告する。また、本会議は要綱第8条により公開を原則としており、会議の結果として、要約した会議録をホームページ上で公表することも、併せてご承知おきいただきたい。

それでは、会長及び副会長の選出に入りたい。会長、副会長は要綱第6条第2項により、委員の皆様の互選による選出となる。まず、会長の選出を行いたい。どなたかご推薦いただけないか。

海平委員 会長は、学識経験である熊本県立大学の柴田委員にお願いしたい。

進行 ただいま海平委員から柴田委員を会長にとのご推薦をいただいたが、他にないか。

<他の推薦なし>

進行 他にご推薦がないようなので、柴田委員を会長ということでもよろしいか。承認していただける場合は拍手をお願いしたい。

<柴田会長選出>

進行 次に、副会長の選出をお願いしたい。

会長 副会長は、第1期からまちづくり懇話会委員の副会長を務めていらっしゃる岡委員にお願いしたい。

進行 柴田会長から岡委員を副会長にとのご推薦だが、皆様、承認し

ていただける場合は拍手をお願いしたい。

<岡副会長選出>

進行 では、会長は議長として議事の進行をお願いしたい。

会長 私は、都市計画と農村計画を専門にしている、都市から農村部まで広い範囲のまちづくりの研究をしている。最近で言うと、熊本地震の復興支援ということで南阿蘇村や益城町に入っている。また、熊本市内で言うと城下町の新町・古町は古い建物が残っていて、かなり被害を受けているので、被災した建物の修復とかまちづくりのお手伝いをしている。こういった今までの経験をこの場に活かしていければと思っている。私も、皆さんと同じように今年度から初めて懇話会に参加しているので、「そもそも何の集まりなの？」というのが正直な気持ち。これから事務局からお話があると思うので、皆さんと一緒に懇話会についての理解を深めて、南区について考えていきたい。これから2年間よろしく願います。

それでは、さっそく議事にはいりたい。まず、南区まちづくりビジョン、南区まちづくり懇話会等について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 (説明)

会長 ただ今説明があったとおり、今年度はビジョンの中間見直しの年である。ワークショップで区民意見を聴取した後、第7次総合計画や震災復興計画を踏まえて事務局で見直し案を作成するので、懇話会の重要な仕事は見直し案について意見を言うことである。もう1つは来年度のまちづくり推進経費についても秋ごろ事務局から案が提案されるので、「ここはこうした方がいいのではないか」という意見を出していただくことになる。そして、それだけでなく、毎回区長や部長が出席されるので、もっと広く南区のまちづくりについて区長や部長に意見を申し上げることができる。

ここで、1期からずっとまちづくり懇話会に関わっておられる岡副会長から、補足があったら、ご挨拶も兼ねて一言お願いした

い。

副会長

このまちづくり懇話会は、委員の皆様にとって、行政と意見を交換できる、そして地域の実情を訴えて、建設的な意見として活かせる場としてとても重要になると思う。実際に、この「まち歩き手帖」はまちづくり懇話会の中で検討して完成したもののだが、人気があって現在在庫がないシリーズもあるようだ。前の懇話会では、実際に「まち歩き手帖」のコースを歩いたこともあった。南区をより良くしていくために自分たちの経験や地域の情報を出していただいて、行政と一緒により良いものにしていくことが、懇話会の役割だと思う。「私は何も知らない」ではなく、ご自分のお考えをどんどん言っていただく場として懇話会を使っていたらいいと思う。恐らく、行政もそれを求めていると思うので、気軽にざっくばらんにお話をしていただきたいと考えている。

さきほどの事務局の説明については、時間の制約があってかなり足早な説明だったので、ぜひご質問があればお願いしたい。

大村委員

何から話をしたらいいのかなというのがあって、いろんな方がいらっしゃるので、自分の得意分野だけでなく、皆さんのお考えを聞いて自分はこうしたいという話をしたいと思う。

会長

もちろん、ご自分の地域のことについてもお話していただきたいし、南区全体のことも含めて日頃取り組んでいらっしゃることについてもお話をしていただきたいと思う。何か制約があるわけではないので、自由に発言していただきたい。私も、初めての参加なので若干緊張していて、硬い雰囲気になっているが、ざっくばらんにいきたいと思っている。

野口委員

先ほど、岡副会長が話された「まち歩き手帖」についてはもちろん知っていたが、活用したことはなかった。まちづくり推進事業については、これだけの事業があって、実際いろんな場で活用されているということだが、1つ1つの事業の内容がよくわからないので、時間の問題もあるかもしれないが、できればいくつか詳しく説明していただきたい。なぜかというと、私たちの地域の中ではまちづくり推進事業について知らない方も多い

ので、私が地域の方に広めていくこともできている。私は民生委員をしているので、健康問題に関心がある。「南区ウォーキングキャンペーン事業」について、説明をお願いしたい。

保健子ども課長

「南区ウォーキングキャンペーン事業」は平成 26 年度から実施していて、当初は NTT のトライアル事業を活用して実施した。南区はどうしても公共交通機関での移動が難しく、歩く機会が少ない地域なので、「歩いて健康になろう」を合言葉に各校区の体育協会を通じて募集をしている。平成 28 年度は熊本地震の影響もあり、1 校区あたり 5 名で募集したが、平成 29 年度は 1 校区あたり 10 名程度で募集をし、団体戦と個人戦でゲーム性も取り入れながら、歩く歩数を競っていただいた。参加された方からは「歩数計で測定することで、日に日に歩数が増えていった。」というご意見もいただいております、皆様、楽しく参加していただいている事業である。

会長

今日は、すべての事業を詳細に説明するのは難しいが、意外と皆さんが聞いたことあるという事業があるのではないかと。

海平委員

家庭訪問型子育て支援事業は、とてもいい事業だと思うが、民生委員との関わりや連携はどのように進める計画なのか。

保健子ども課長

本年度から新規事業として取り組む事業になるが、合併前の城南町でボランティアとして実施されていた団体があるので、その事業をベースに新たに訪問支援員を育成して、その活動を支援するということ考えている。現在、民生委員さんが「こんにちは赤ちゃん事業」で、3~4 ヶ月の新生児がいらっしゃる全家庭を訪問されているので、その中で少しでも支援が必要じゃないかと感じた「気になる家庭」がこの事業の対象になる。たとえば、虐待やネグレクトが疑われる家庭については、要支援家庭ということで区役所が関わり、さらに専門的支援が必要な場合は、専門職が支援をしていくことになるが、区役所や専門機関が関わるレベルではないが、このままだと要支援家庭に移行する可能性がある孤立しやすい家庭を「こんにちは赤ちゃん事業」の中で発見し、区役所に連絡していただくことで、家庭訪問支援員が訪問して、お話を聞いたり、いろんな子育てサ

ークルなどにつないだりして孤立を防いでいくことになる。ただし、当然のことながら該当家庭に利用の意思があることが前提となる。本市では、他の区は子どもの数が減少しているが、南区だけは子どもの数が増加しているので、子育て支援に力を入れていきたいと思っている。

会長 今、お話にあったように南区は子どもの数が増えているので、こういった子育て支援事業はとても重要になると思う。そして、もう 1 つの新規事業「地域復興まちづくり支援事業」については、まちづくりセンターと関わる事業になるので、事務局から説明をお願いします。

総務企画課 冒頭、区長から説明をさせていただいたが、本年度から各地域にまちづくりセンターが設置され、地域担当職員が配置された。このまちづくりセンターと地域の信頼関係の構築と地域住民・団体との連携強化を目的として立案した事業である。具体的には、本年度は南区のまちづくり事業の中間見直しを予定しているので、夏ごろに区民意見を聴取するための区民ワークショップを開催する。その中に地域担当職員も入って、地域の課題や魅力について、地域の皆様と話し合いをさせていただく予定にしているので、このワークショップで出た地域の個別の課題を地域に持ち帰って、課題を解決するための事業をまちづくりセンターと地域が協働で立案するということ考えている。各地域でワークショップなどを開催し、課題解決のための来年度の事業を立案するという内容である。ただし、課題をすでに見出しているまちづくりセンターについては、本年度から課題解決のための事業を実施する計画である。

会長 まちづくりセンターにとっては、初年度とても重要な事業と理解した。今、説明があった区民ワークショップの結果については、この場で皆さんにもご報告する予定になっているので、皆さんからもしろんなご意見をちょうだいしたい。そして、秋ごろに平成 30 年度の南区まちづくり推進経費の案が出てくるので、その場でまた本日のようなご質問、ご意見をいただきたい。それでは、次に移る。本日は、第 1 回懇話会ということで、皆

さんにお集まりいただいているので、「私のまちづくりについて」というテーマで、ここからしばらく、意見交換を行いたい。自己紹介を兼ねて、順番に地域や団体等で活動されていることやまちづくりに対する思いなどをお話しいただきたい。今回は、南区内の視察を計画しているので、ご自身の地域で見たい場所があれば、ご発言をお願いしたい。

前出委員

飽田では、自治連合会と提携してまちづくりをしている。「あきた健康まつり」は南区役所からも協力してもらっている。次に、「火の君まつり おてもやん総踊り」。自治連合会で参加しているのは飽田だけなので、自慢できると思っている。総踊りも段々参加者が少なくなっているので、南区として参加したらどうだろうか。そして、「飽田地域伝統文化祭」、「熊本城マラソン大応援団」など、飽田はまちづくりセンターと協力しながら、自治連合会も中に入り込んで、いい方向に変えていきたいと思っている。

自治会長を4年間やっていたので、苦情対応をしたり、行政にも苦言を呈したりといろいろやってきた。これからよろしくお願ひしたい。

会長

せつかくなので、地域代表の隣に座っていただいているまちづくりセンターの所長からも一言お願ひしたい。

飽田まちセン所長

私は、平成3年の合併の時に飽田総合出張所にいた。その頃から地域で「飽田はひとつ」ということでまちづくりをされていたが、今回4月に赴任してからも、当時と変わりなく地域の方がまとまって、自治連合会が中心となってイベントを実施され、行政に対しても協力していただいている。

木村委員

川口校区自治協議会の下部組織として川口健康づくり部会を設けていて、毎年5回会議を開いている。構成は、各町内の自治会長、小学校長・教頭、保育園長、民生委員、老人会長、小学校PTA会長・保健体育委員長、食生活改善推進員、校区体育協会会長、校区青少年健全育成協議会長、ささえりあ天明、川口漁協、和田医院院長、行政。活動の内容は、川口小学校で毎年1回「元気フェスタ」を小学校、PTA、地域のお年寄りで開催して

る。また、同じく川口小学校で「郷土料理教室」、PTA 主催で親子の生活見直し取り組みへの支援、出張型特定健診の周知支援、その他生活習慣病に関する特別講演会などを実施している。まちづくりビジョン基本目標4「みんなが健康で元気なまち」と5「地域ぐるみで子どもを育てるまち」に対する取組みに該当するのではないかと考えている。健康づくり部会は発足して8年経ち、レベル2~3の領域に入っていると思う。しかし、基本目標1「農・漁業」と2「歴史・文化」については、足元にも及ばない。まして、基本目標6「安全・安心」については、川口はまわりを海に囲まれていて危険性が高い地域である。水防の重要性については、消防団も認識していて、何かあった場合はすぐに駆けつける気持ちでいてくれるが、人材不足という不安がある。基本的に「いきいきと暮らす」というのは、生活していく中で地域住民の不安を軽くすることだと思う。その中で、祭りや催しなどに発展していくと思うので、課題を掘り下げて解決していきたい。

天明まちセン所長

天明地域は、今説明された川口校区のほか中緑・銭塘・奥古閑の3校区があり、それぞれに校区自治協議会が設置されていて、とてもまとまりがある地域だと認識している。天明ではこれまで「市民のつどい」というイベントをやっていたが、去年は地震の影響で実施できなかったのも、今年の実施したい。また、校区自治協議会以外にもいろんな団体がまちづくりに尽力されているので、これから連携を深めていきたい。

野口委員

私は幸田校区民生委員・児童委員協議会で活動しているので、民生委員の取り組みをご説明したい。地域の福祉活動は、校区社会福祉協議会、校区民生委員・児童委員協議会で行っているが、ほぼ民生委員が活動している。数年前から民生委員の中で「高齢者の中でつまずいたり、転んだりする方が増えているよね」という意見が出た。これまで、日ごろ交流するための高齢者サロンは開設していたが、高齢者の方にいつまでも元気で楽しく暮らしていただくためにはサロンだけでは足りないということで、ささえりあ平成さんにご相談して健康づくりに力をいれるため「転ばぬ教室」を開催した。最初は、町内から始めたが、現在では校区全体に広がっている。民生委員は高齢者や子

どもたちの見守り活動なども行っているため、なかなか民生委員だけで事業を進めていくのが難しい状況になっている。昨年
から他の校区で取り入れている「福祉協力員制度」つまり民生委員以外にもボランティアで地域福祉活動を応援していただける方を育成していくことを検討し始めた。サロン活動には、町内からボランティアでお手伝いされる方もいたが、ボランティアということでなかなか皆様にご紹介する機会もなかった。このような状況から、ボランティアさんを地域の皆様にご紹介すると共に、ボランティアさんを増やして地域全体で高齢者の健康づくりや子どもたちの見守りを行うことを目的として平成 29 年度から「福祉協力員制度」を立ち上げて募集したところ、43 名の方から応募があった。ボランティアさんもなかなか若い方は入っていただけないので、高齢者の方がほとんどだが、ご自身の健康づくりも含めて活動していただいている。この福祉協力員の中から将来の民生委員、校区民生委員・児童委員協議会の役員になっていただける方を発掘していきたいと思っている。幸田まちづくりセンターから「市政だより 7 月号」に「福祉協力員制度」の記事を載せていただいたので、ぜひご覧いただきたい。

幸田まちセン所長

まちづくりは始めてなので、さきほどお話があった「まち歩き手帖」をもとに、地域担当職員と地域を歩いて、地域を知ることから始めている。幸田地域は、野口委員からお話があったように皆様仲良く、元気に活動されているが、高齢者の方が多いので、担い手不足が課題となっている。これから若い方を巻き込んで、楽しくまちづくりができればと思っている。

小山委員

まちづくり懇話会委員名簿を見ると校区自治協議会の会長が多いので、私でいいのだろうかと思っている。私は、南部代表になっているが、全体的な話はできない。野口町自治会の役員をしているので、野口町のことについて話したい。私も 2 年前まで校区民生委員・児童委員協議会での活動を 9 年やっていた。その後、2 年間福祉協力員として月 2 回のふれあいサロンの開催、高齢者見守りを実施している。そして、野口町役員として子ども会と協力して「夏祭り」の開催、校区青少年健全育成協議会と協力して「中学生協力事業」でお年寄りとお料理を作ったり、

グラウンドゴルフや囲碁大会をやったりしている。また、野口町には白川があるので、「白川を守る会」と協働して、「どんどや」を開催している。さらに、力合西小学校が3年前に開校したが、どんどん人口が増えているためすでにプレハブ校舎が2棟建っている状況で、子どもたちの数も多いので、安全・安心なまちづくりということで歩道橋設置をお願いしている。しかし、熊本地震の影響で予算が足りないということで断られてしまったので、登下校見守りや子ども会と一緒に防犯パトロールをしている。野口町は、子どもが増えたおかげで、子どもたちの遊び声が聞こえるようになって元気なまちになっている。

南部まちセン所長

南部地区には、日吉・日吉東・城南・川尻・力合・力合西という6つの校区がある。中には国道やJRも通っているので、大変都市化が進んでいる地域だと思っている。それぞれの校区で一生懸命活動されているが、抱える問題が異なるので、すべてに対してきめ細やかに対応したいが、力不足で期待に添えない面もあるのではないかと考えている。私は、昨年度、南部出張所に赴任してきて、4月の熊本地震が発生したことで地域の避難所を訪問し、各校区自治協議会の会長と知り合うことができた。このときのつながりが、まちづくりセンターの取組みに役立っているのではないかと考えている。

海平委員

富合は、隣に座っている、とても心強いまちづくりセンターの支援を受けながらいろんな活動をやっている。

まず、6月11日に緑川河川敷サッカー場に芝生の苗を4万ポット植えたが、種まきから苗作りまで地域で実施した。3時間くらいを予定していたが、400人超のボランティアが集まったので、1時間半でやり終えた。これから、水まきや肥料、芝刈りなど大変な作業があるが、体育協会のサッカー部会を中心に頑張っている。2つ目は8月19日に開催するサマーフェスティバル。全22自治会、3保育園、小学校、中学校が出演する地域参加型のイベントで、予算もあまりないので、手作りで開催する。

3つ目は、文化財であった加藤清正が作った井桶橋。去年の熊本地震で被災したので、「井桶橋を活かそう市民の会」が何とか活かさないかということで頑張っている。

4つ目は、成人式の開催。1月7日に3部構成で、成人者が企画・

運営し、毎年実施している。1部が歓迎セレモニーで太鼓などのステージイベント、2部が式典、3部が保護者、恩師も入った茶和会という独特な成人式を開催している。

最後は、老人、子どもの見守り強化。校区防犯協会と各自治会中心で推進をしている。各自治会による「見守り隊」、校区防犯協会による防犯パトロールは何十年も続いている。

富合まちセン所長

昨年、まちづくりセンターに配属が決まってから、昨年度までまちづくり懇話会の会長をされていた田中先生から「南区でよかったよ。」と言われて、どうしてだろうと思っていたが、実際配属されてみて本当にそう思った。富合は、海平会長を初めとして、各自治会の活動も盛んで、何より人柄がとてもよい。校区自治協議会は目標をきちんと設定されて、行政に対する要望も整理をして、提示をされるので、我々はとても動きやすい。これから、地域の期待に添えるよう頑張ってみよう。まちづくりを支援していきたい。

松浦委員

城南町全体としては、「城南町ふるさと祭り」を昨年から10月に開催している。それと、「福祉祭り」は3校区の社会福祉協議会が開催、そして、3校区合同の老人会発表会を城南町全体で開催している。

そして、各校区でもそれぞれ活動があり、杉上校区では毎年校区の運動会を実施している。

豊田校区では、「校区自治協議会のつどい」を年に1回開催し、コミュニティセンターの出前講座を年に1回、大人と子どもの混合グランドゴルフ大会を年に1回、月2回健康づくり講座を今年からはじめている。また、富合町で開催されている成人式を今年から豊田校区でも開催する計画を立てている。

城南まちセン所長

私自身は、川尻に住んでいて、政令指定都市移行前に富合総合出張所に勤務していたので、南区にはとても愛着を感じている。また、政令指定都市移行後は、西区まちづくり推進課長として西区まちづくりビジョンの策定に関わっていた。その時に、まちづくりについていろいろ考えたが、最終的な目的は皆様が「住んでよかった」と思えるまちにすることだと思う。その手段をそれぞれの地域で、地域の皆様と考えていくのが行政の役割だ

と思っている。昨年度から城南総合出張所に赴任したが、昨年は熊本地震で城南町は甚大な被害を受けた。松浦会長からもご指導を受けながら対応してきたが、城南町の皆様は地域にとっても誇りをもっていらっしゃる。城南町は被害が甚大だが、必ず以前よりもすばらしいまちになると確信している。

城南交流室長

城南だけが、公民館施設と出張所施設が分かれているので、まちづくりセンター所長は以前の城南総合出張所に常駐し、私は公民館長として公民館施設に常駐している。まちづくりセンターの運営については、協力しながらやっている。城南町は旧町の時代から各自治会が主体性をもって、まちづくり活動を実施されている。杉上・隈庄・豊田と3校区あるが、合併を契機にそれぞれ校区自治協議会を結成し、活発に活動されている。合併後5年以上経過し、それぞれの校区で課題があるので、公民館として、校区の課題の抽出や解決のお手伝いできればと思っている。私は城南町出身でずっと地元にいるが故に、見えていない点があるかもしれないので、改めて皆様のご意見を伺いながら支援していきたい。

藤本委員

私は、住まいは富合町で城南図書館に勤務している。私も場違いなところに来てしまったと思っている。城南図書館は児童館が併設されているので、親子連れから高齢者まで利用されているが、さきほど紹介があった「まち歩き手帖」は本当にあっという間になくなってしまった。城南図書館では、地域の方に喜んでいただけるようにということで「城南マルシェ」や「お茶つみフットパス」など年間30件ほどのイベントを開催していて、毎回キャンセル待ちが出るくらい人気がある。お茶つみフットパスとは、竹田製茶園のご協力のもと、親子でお茶つみと城南町のフットパスコースの体験をしていただくという内容である。その他、小学校との連携で教科書に出てくるお話のブックトークや働く世代のワークショップなどを開催しているが、これからますます図書館の果たす役割は大きくなっていくと思うので、地域の方に喜んでいただけるように、私もここで勉強させていただきたいと思っている。

大村委員

子どもが田迎南小学校と託麻中学校にいて、息子が野球をして

いる。個人的な意見を言わせていただくと、雁回公園のグラウンドはかなり鬱蒼としているので、どうにかならないかなと思っている。それと、託麻中学校はかなりクラス数が増えているので、どうにかならないかなと思っている。

今日、説明があったまちづくり推進事業はとてもいい計画だが、参加される方は限られていると思うので、私はたくさんの方にこの事業を知っていただいて、興味を持っていただけるような方法を考えていきたいと思っている。

奥田委員

天明商工会で事務局長をしている。商工業者の指導育成が主な仕事で、飽田・天明・富合・城南・河内の商工会で組織する西南部広域連携の事務局長も兼務している。まだ、南区の全体像がつかめていないので、まずは地域を知るためにあちこち出かけている。商工会の事業目的のとして、地域住民の福祉の増進をあげているので、商工会として地域の改善にどういった関わりができるのかこれから勉強していきたいと思っている。

大澤委員

城南町の杉上校区防犯協会の役員として、今回懇話会に参加している。城南町のことについては、先にお話があったので、校区防犯協会についてお話をしたい。校区防犯協会は「犯罪のない、明るい住みよいまちづくり」を目指しており、杉上校区では、子どもたちの見守り隊を結成して、3班編成で午後6時から地域をパトロールしている。昨年からは、やっと思庄校区・豊田校区とともに青パトを導入して、城南町一体となって子どもの見守りに取り組んでいる。夕方になってもなかなか自宅に帰らない子どもがかなりいるので、声かけをしながら、身近な安全対策の充実に努めている。また、私は婦人会の役員も務めている。婦人会では、生命を大切にということから、消防署員を講師に迎えて蘇生法を習ったり、講話をいただいたりという取り組みをしている。

矢澤委員

天明地域の銭塘校区で主任児童委員をしている。子育て関係では、各校区で子育て支援ネットワークを組織していて、この活動を充実させるためいろんな研修会を開催している。ただし、校区によって活動内容に差があり、組織が出来てからかなり経って積極的に活動中の校区もあれば、やっと思組織が立ち上がった

てこれから何をしようかと検討中の校区もある。岡副会長にも校区の子育てに関するマップづくりなどの講師を務めていただいたり、熊本シティ FM の水野さんに講師を務めていただいたりといろんな研修を開催している。私が住んでいる天明地域では結構古くから活動していて、昨年度は親子歯磨き講習会や親子ふれあい体操、お母さんを対象にした食育の講演会などを開催した。今年度はスマートフォンがもたらす身体やコミュニケーションへの影響ということで専門家の講習会を開催する計画を立てている。先日、熊本市の子育て支援の連絡会があり、今年度は 8 月に私たち子育て支援者を対象にした防災に関する講演会が開催されることになった。昨年の熊本地震を踏まえて、災害が起こった時に子育て支援者がどういう取り組みをするべきかという内容になっている。そのときに、東区では、子どもに特化した防災のリーフレットができたという話があった。災害が起こった時に、子どもを守るためにお母さんたちがどういう行動をとったらいいのかということが書かれていて、コンパクトでとても使いやすい形で、わかりやすい内容になっていた。費用はどうしたのかと聞いてみたら、東区のまちづくり推進経費から出ているということだったので、頑張っって南区でも提案してみたらと言われた。これから、子育て支援について、できる限り私たちでできることやっていきたいと思っている。

芥川委員

私は川尻に住んでいて、民生委員代表として出席している。川尻では今まで皆さんが説明されたことを何十年も前からずっとやっているの、私の管轄になっている健康・福祉についてお話ししたい。被災した時に避難所に行ける人は幸せである。家が壊れていても高齢者を抱えていて動けない人がかなりいた。区役所も予想外のことで対応が難しかったと思うが、避難所におにぎりをもらいに行っても、なかなかもらえなかった。田舎で食材は沢山あるので、南部出張所の所長に相談して、自治会ですぐ炊出しをした。

各避難所を見て回ると、中に入りきれないぐらいに人がいて、駐車場で過ごしている状況を見て、これは小さいお子さんや高齢者は避難できないと思い、各家庭を見て回った。今年度から家庭訪問型子育て支援事業が実施されるが、とても期待している。動ける人、行ける人は助けられるが、それができない人も

いるということを考えてほしいと思っていたので、とてもいい事業だと思う。

吉村委員

私は川尻から来ていて、担当は歴史・文化になっているが、実は全くの素人である。歴史・文化となると、どうしても地震の話になる。地震から1年経ったが、歴史・文化施設はかなりの被害を受けていて、修復にも時間がかかる。川尻では大慈禅寺がかなり被害を受けている。皆様方の地元の寺院や神社もかなりの被害を受けていると思うが、そういったところは時間がかかってたぶん元に戻すことができる。今は、このまま消えてしまうものがあるのではないかとということを危惧している。川尻では、旧地蔵町にあった閻魔堂が倒壊して、公費解体で撤去されたが、このまま元には戻らないという気がしている。閻魔堂はもしかしたら復興の気運が高まることもあるかもしれないが、何が消えていったのかを確認している状況である。この間も城南町の小木阿蘇神社を見に行ったが、石像物は被災した時のままでこれからどうされるのかなと心配している。また、河尻神宮は境内・参道に20数基あった石像が撤去されて、スッキリしていた。河尻神宮の石像については、私が全数調査していたので、よかったと思っている。そういう記録が残っているものはいいが、復興せずになくなっていくものの検証をどうしようかと苦慮している。現在、国の文化財に指定されている川尻御蔵の修復が実施されている。全国にも米蔵はいくつかあるが、完全な修復となると唯一のものになると思う。修復が完成すると街並みが変わってくるので、南区の観光文化では一番大きいことだと思うので、期待している。

正木委員

熊本市認定農業者の会の会長をしている。昨年の熊本地震の後、会長に就任したが、南区では城南町と富合町が相当の被害を受けていたので、去年は本当に何もできなかった。

私は飽田地区の会長を15年したので、そのまま熊本市の会長に就任した。会長という立場もなかなか難しいもので、最初7地区で開始した会だったが、一昨年にやっと富合町と城南町が合併して、さあスタートしようとした矢先に熊本地震が発生した。熊本市においても農水局で農業促進の計画について、マスタープランを元にプランニングしている。南区まちづくりビジョン

の考え方も取り入れることができるのかなという思いを持っている。そういう点から、この会に参加できてよかったと思っている。

会長

次回以降もこういった意見交換になると思うので、皆様それぞれのご意見をこの場で発言していただきたい。

今日の皆様の発言を私がまとめて、南区の地図に貼り付けたが、健康・福祉のお話や子どもが増加しているというお話があった。防犯見守りの話、緑川と白川のお話、歴史・文化で郷土料理や川尻御蔵の話、地震被害の話もあった。

この場での大きな特徴だと思うが、地域代表のお話とテーマ代表の方のお話があって、テーマ代表の方もそれぞれの地域で活動されているので、いろんな角度から多様なご意見をいただいた。意見もまとめるだけでも勉強になるというのが私の感想である。

一方で、懇話会は何かを決める場ではないが、皆様からいろんな意見をいただく場である。この場で何かを決めるのは無理だと思うので、懇話会からまちづくりの大きな方向性を区長に報告できればいいと思う。今回は第1回目なので、まとめはせずこういった意見が出たという報告にしたい。私から皆様へ個別にいろいろ質問があるが、次回以降にしたい。

最後に何かご質問等があれば、お願いしたい。

松浦委員

安全・安心について、児童の通学路の草が多くて、歩道の役割を果たしていない。

区役所は歩道の除草についてどう考えているのか。

区長

道路については管轄があるが、まちづくりをすすめるために管轄を超えた連携は当然必要になるので、施設管理者や担当の部署に南区から要望するので、何かあったら連絡してほしい。

会長

今、区長から行政の連携についてのお話があったが、区民の側も横のつながりが必要になる。懇話会がそのきっかけになればと思う。